

様式（細則 5-2）

平成26年9月30日

浜田市議会議長 原田 義則 様

議員名 澁谷 幹雄



## 調査研究活動報告

下記のとおり調査研究活動を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 平成26年8月18日～8月20日
2. 視察又は訪問先
  - (1) 長崎県大村市 おおむら夢ファームシュシュの取組  
内容 自然・農業体験型観光と地域の担い手連携について
  - (2) 熊本県球磨郡山江村 時代（とき）の駅むらやくば  
内容 グリーンツーリズムと地域連携について
  - (3) 熊本県人吉市 人吉市役所、農家レストラン「ひまわり亭」  
(ひまわり亭と人吉・球磨グリーンツーリズムの取組について)  
内容 「女性の自立とグリーンツーリズムの取組による地域活性化」
  - (4) 福岡県太宰府市 九州国立博物館  
内容 文化財修復と和紙の役割について
3. 参加者 申崎利行、野藤薫、上野茂、飛野弘二、布施賢司、平石誠  
澁谷幹雄、西田清久
4. 調査経費 30,786円



「自然・農業型観光と地域の担い手連携」  
おおむら夢ファームシュシュの取組について  
代表取締役 山口成美氏

- 年間 49 万人、一日平均 1350 人の客数、客単価 2000 円
- 売り上げ歩合方式 12% ~ 15%
- 農村の 3K → 高齢化 × 後継者不足 × 荒廃農地  
シュシュの 3K → 観光農業 × 感動 × 希望  
一番労力のいる収穫時期が一番楽しいにする！  
いちご採り → いちご持ちー お客に楽しんでいちごを採ってもらう
- 規格外の農産物 → アイス・ジュース・パン工房へ
- 地産地消のランチバイキング・花のアレンジ・レストランで法要 (料理 5 千円)。結婚式
- 工夫によって、お金を稼ぐ
- 4000 円ギフトー生果物だけでは食べきれない → 生果物 + 100% ジュース
- 山口氏は、農家の立場は JA と対立しているので、辞職して起業
- 農業塾ー一回の参加費用 2000 円
- 冬場の牛乳の消費拡大 → フリン・ヨーグルト
- 荒廃農地で芋栽培 → 芋焼酎に
- 行政は、ボランティアというが、利益がでないとは長続きしない
- 不安 → ファンに
- たった一度の人生 にここに笑顔で 年中夢求！
- 婚活イベントー参加費用 3800 円ーお金を払ってでも参加したい人「ただ」でない 15 対 15 ぐらいの人数が成功率高い
- 農家民泊ー8件 台湾から 200 人受け入れ

視察を終えて戻ると、「年中夢求」と大書されたハガキが山口社長から届いた。地域の発展には、リーダーが不可欠であることが、今回もよくわかる視察になった。「シュシュ」は、見晴らしのよい高台にあったが、見晴らしがよいから、そこに建設されたのではない。山口社長の農園に近いから建設され、施設一つずつ、成功ごとに拡張されたのだ。収穫された野菜や果物の、ジェラード・ジュース、ジュレ、パン、と無駄にせず商品化されており、若い奥さんたちの客が多いのに驚いた。レストランも、地産地消が徹底され、バイキング料理も美味。POP も個性的。生産者が利益のできる仕組みが構築されており、「こんな施設が浜田にあったらなあ……」と、思わざるを得なかった。

## 山江村のグリーンツーリズム

山江村村長 内山慶治氏 山江村村議会議長 松本佳久氏

- ツーリズム① 経済的潤い ② 田舎体験・教育的効果
- やまえ未来塾—交流事業 話し合い 里山資本主義
- 旧山江村役場を、農家レストラン「時代の駅むらやくぼ」に改修
- 祭り 敬老会 運動会 盆踊り
- 背伸びせず、小銭を稼ぐ
- 自分たちが楽しもう
- 人と人とのつながり「人が宝」
- 女性の元気な組織は、勢いがある

これまで、行政視察に訪問して、今回の山江村のように、行政トップの首長と議会代表の議長二人ともに迎えてもらったのは、初めてのこと。

平成の大合併が叫ばれて、全国3200の市町村は、1800に減少したのだ。小さい規模の自治体では、住民サービスが滞ってしまって、都市間競争にも対応できない、とかなんとか言われて。それなのに、山江村は、地域の資源を活用し、みんなが明るく元気なのは、どういうことだ。それと、首長と議長に、何と心配りと気配りのあることか！国の政策に翻弄されることなく、地方自治体は自分で考え、自分で行動すべきであり、そのことの重要性を、改めて感じさせられた。

## 「人吉 球磨グリーンツーリズムについて

人吉市経済部次長 大淵修氏 農業振興課課長補佐 鳥越輝喜氏

- 市が、グリーンツーリズムの窓口になることは難しい
- 農家民泊の改修費用50万円補助
- 人吉市グリーンツーリズム推進協議会
- 小学生の民泊—自然の感動・農作業体験
- 大学生の民泊—地域づくりインター事業
- 課題—グリーンツーリズムへの認知度が、まだまだ低いので、PRの強化が必要 農家民宿だけでなく、体験・体感メニューを絡ませた事業が必要 観光業と商工業の連携による地域活性化策(温泉・球磨川下り・ラフティング・歴史文化財・球磨焼酎・伝統工芸品とのコラボ) 体験から交流へ 交流から定住への仕組みに挑戦 受入れ農家の高齢化があるので、無理のない体験メニューの整備

グリーンツーリズムを推進するためには、行政職員の熱意と行動力が不可欠であることを感じた。浜田市も、10年かけて、職員の専門家、スペシャリストを要請すべきだ。夕方のわたしたちの懇親会に、鳥越課長補佐が参加。こんな、積極的な職員さんも初めてだった。

## 「地域の食を活かした交流による地域づくり」

ひまわり亭代表 本田節氏

- ふるさとが抱える問題—少子高齢化、過疎化、産業の低迷、担い手不足、「食」の環境の危機、食料高騰
- 農山漁村の女性たちはもともと「食」業の達人だった
- ツーリズムビジネスのキーワード「食」業
- 食生活の全てに関わる日本最古のキャリアウーマン「農村女性」
- 農家レストラン「ひまわり亭」のこだわり—地産地消 地元食材を使った食文化の創造と伝承 食育の推進 安心安全な食の追求
- キーワードは「もったいない」
- ひまわり亭「月替わり御膳」
- ひまわり亭を拠点に広がる食のネットワーク
- 女性が主体のツーリズムビジネス
- ふるさとに自信と誇り 田舎の宝物 再発見
- 心と体の癒し 5つのK 高齢者問題 教育 環境 健康 暮らしと観光
- 待ちました定年 60歳新入社員
- 郷土料理伝承塾
- 講師を招いての料理教室開催
- 農家民宿レベルアップ研修
- 農家レストランレベルアップ研修
- 「地産地消アンテナショップ」開設 食を通じた情報発信と交流をめざして
- 地域再生事業の3つの条件—個人として納得のいく生き方の追求  
社会の抱える矛盾の解消に立ち向かおうとする姿勢  
事業性と共益性のバランスのとれたコミュニティビジネス→社会を変える
- 今後の課題—地域の伝統・食文化を活かした地域産品の開発販路開拓  
情報発信と誘客への地域独自のおもてなし

本田節さんは、カルチャーショックのような人だった。

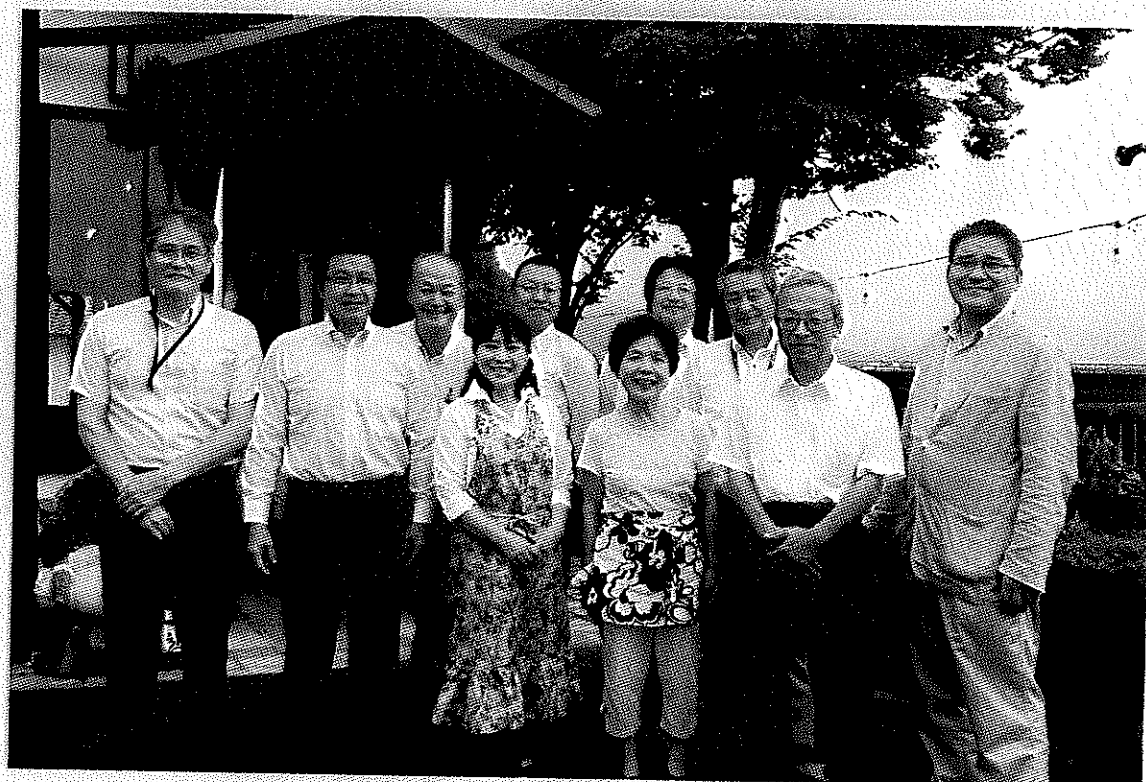
彼女は、西田清久議員をハグしながら、「お帰り、わが弟よ」と言って迎えた。ツーリズムで、農家民泊を行い、訪問者を受け入れている皆さんも、自分たちがこんなに元気で楽しい毎を送れるのも、「本田さんのおかげ」と口々に語った。

自分のふるさとを誇りとし、都会と競うこともなく、地域の長所を見つけ出し、商品化、雇用の場を創出し、明るく笑顔がいっぱいで、なんと元気なことだろう。

浜田市議会も、「浜田ツーリズム推進条例」を議員提案するために、行動しようと、思い立ったところだ。挑戦したいと思う。



山江村「むらやくぼ」の前で(内山村長と松本議長と)



ひまわり亭の前で(本田節氏と)